

第1回登別市総合計画第3期基本計画市民検討委員会ぬくもり部会議事録

- ◆ 開催日時 平成26年6月10日（火） 18:30～19:40
- ◆ 開催場所 登別市市民活動センター「のぼりん」
- ◆ 出席部会員 部会長 雨洗 康江
副部会長 田渕 純勝
部会員 今 順子
鎌田 和子
千葉 円哉
松本 朋史（市庁内検討委員会 部会長）
【保健福祉部次長】
吉田富士夫（庁内検討委員会 副部会長）
【保健福祉部子育てG総括主幹】
平田 雅樹（庁内検討委員会 部会員）
【保健福祉部障害福祉G総括主幹】
- ◆ 欠席部会員 部会員 岩浅 眞純
- ◆ 事務局 沼田総務部企画調整G総括主幹
西川原総務部企画調整G主査
- ◆ 議題 「第1章やさしさと共生するまち」に関する考え方について

◎事務局

初めに事務局から、今後の部会の進め方について説明したあと、部会長、副部会長の進行で進めていただきたいと思います。

今回の基本計画の実際の作業内容についてですが、第1章【やさしさと共生するまち】という部分については、平成8年に策定した登別市基本構想でおおよそ50年先のことを定めているものですので、変更はできません。しかし、【政策】から、【主要な施策】までは変更が可能です。

【主要な施策の考え方】については、【主要な施策】の進め方を記載していますが、この部分は、庁内検討委員会部会で検討しておりますので、この細かな修正は必要ありません。しかし、【主要な施策】を進めるために、考え方に不足しているものがないのかなどのご意見があればいただきたいと思います。

また、一番右に【主な事務事業】という欄がありますが、参考までに実際に関連する事務事業名を掲載しているものですので、「この政策を実現するためにこの事業をするべきだ。」などの議論は必要ありません。

最終的には、この体系図（案）を調製していただき、体系図に盛り込めないが、「行政（市民）はこれをやるべきだ。」ということなどは、提言書としてま

とめていただくこととなります。

行政では、全て計画に盛り込み事はできないかもしれませんが、皆さんの意向を踏まえた中で第3期基本計画を策定していきます。

ちなみに、市役所内でも、市民検討委員会と同様にいろいろな部局の管理職で構成する6つの部会を組織し、皆さんがお持ちになっている資料と同じ資料を用い、同時進行で検討を進めております。

本日は、庁内検討委員会ぬくもり部会に所属している、平田保健福祉部障害福祉 G 総括主幹に出席していただいておりますが、本来は、部会長である松本保健福祉部次長と副部会長の吉田保健福祉部子育て G 総括主幹が出席することとしておりましたが、急遽別な用務の関係で、欠席となっております。

今後の進め方ですが、いきなり体系図（案）の検討に入っても、皆さん初対面の方もいるかと思いますので、これまでどのような活動をしてきたのか、今後の登別をどうしたら住みよいまちにしていけるのかなど、皆さんの思いを語っていただき、人となりを共有されたうえで、今後の体系図（案）の検討に入っていければと思います。

全体会議でもお話しさせていただいておりますが、このような会議は、つまらない会議になると誰も来なくなります。特に今回は、部会員の人数も少ないことから、なるべく皆さんの意見を共有しながら、最後には皆さん楽しく実りある話ができたと感じるようにしたいと思っておりますので、「人の意見を否定しない。」「一人で長々と話さない。」などのルールで進めていただきたいと思います。

市役所職員も対等な立場で参加しますので、ただ市民の意見を聞くだけでなく、疑問点などは、どんどん市民にも問いかけていきます。

実際に体系図（案）の検討に入ることになりましたら、庁内部会長、副部会長が順を追って説明することになりますので、10年後さらにはその先まで対応できる内容になっているかなどの検討をお願いします。

会議は、月2回程度で来年2月までにまとめていきたいと思っております。

事務局からの説明は以上ですので、この後の進行については、部会長よろしくをお願いします。

◎部会長

それでは、皆さん改めてこんばんは。本日は、あいにくの雨の中ご出席ありがとうございます。

今、事務局から説明がありましたが、いきなり体系図には入らないで、皆さんの思いなどを語っていただきたいと思います。先に、今回はフリートークですので、1時間程度で会議を終了したいと思いますのでよろしくお願いします。

それでは、副部会長からご発言をお願いします。

◎副部長

私たちが携わる部会は、主に福祉ということになっております。私は、先般「登別市ぬくもりある福祉基本条例」の検討の際に社協の代表委員として1年近く携わらせていただきました。

福祉に力を入れている自治体では、社協の役割が大きいと思っています。登別市の社協も「きずな」という地域福祉の実践企画を5年ごとに作成しており、現在第2期の計画期間中であり、平成27年度で終了します。

今、これまでの反省も踏まえながら、次の計画に取り組もうとしておりますが、市の第3期基本計画も10年計画として今まさに策定に取り組むこととなります。

私は、町内会長をやっておりますが、町内会も地域でいろいろな格差もございます。また皆さんもご承知のとおり、少子高齢化、特に高齢化の加速はすさまじいものがあります。これを市は、どういう施策を打つよう計画に反映するのかということが大きなポイントかと思っています。

また、条例を作った時に、私は子育て支援について強く意見させていただきました。子供を産みやすい環境をいかに作れるか、今回の体系図(案)にも色々な施策が盛り込まれていますが、どうも現実味がまだ足りないと思っています。人口減が進む中、子供を産みやすく、そして育てやすい環境づくりが、まだ弱いかなと思っています。このあたりの施策をもっと強力に進めなければならないと感じています。

私事ですが、最近、近所に住む娘が3人目を産みました。親の私どもが近くに住んでいるので、家族として色々な支援ができますが、やはり子育て支援施策で強烈なアピールが出来るようなものが欲しいと思います。

以上のように、私は第3期計画の中では、子どもを産み育てやすい環境について、皆さんの意見もお聞きしながら、考えていきたいと思っています。

これ以外にもいろいろ考えるところはありますが、まずは1点ということでお話しさせていただきました。

◎部長

ありがとうございました。次の部会員さん発言をお願いします。

◎部会員

私は、私立幼稚園協会という立場から今回参加させていただいております。

仕事は、登別市と倶知安町の幼稚園を兼務しており、昨年春に異動で登別市に赴任したため、正直、登別市とも仕事上で関わる部局とは面識がありますが、市民や町内会などの深い部分の関わりがこれまであまりなかったものだから、これからどう話をして行けばよいかわからない部分が多いというのが正

直な気持ちです。

福祉施策とは少しずれてしまうことと、基本計画の中で関連するのか確認しておりませんが、仕事上、国道を長時間走ることが多いので、途中で休憩を取るのですが、伊達市であれば道の駅があり、ゆっくり休むこともできるのですが、登別市にはありませんよね。

将来的には、観光客もそうですが、市民ギャラリーで市民の作品展示などもして、近隣の高齢者の憩いの場として整備できればよいなと思います。

◎部会長

ありがとうございました。次の部会員さん発言をお願いします。

◎部会員

私は、障がい者スポーツをやっているのですが、市内では障がいのある方でスポーツをやっている人がほとんどいない。各種大会も、登別市からは私一人に参加している状況だが、他のまちでは貸切バスで参加するところも多い。

登別市には立派な温水プールなどもありますので、障がいがあっても色々なスポーツができると思います。

重度の障がいがある子であってもプールが好きな子が多いが、障がい者を指導する指導者がいないことなどの理由でなかなかできない状況があります。

私事ですが、今年、水泳の全国大会に出場することになりましたが、これに参加するための参加費、合宿経費などは個人負担となっています。

更にパラリンピックなどになると、年間300万円程度経費が掛かります。これからの若い障がいのある方のスポーツ活動のために、私が何か扉を開けてあげられたらと思っています。

また、障がいがあってもなくても、一緒に出来るスポーツがたくさんあります。そのようなスポーツを子供からお年寄り、障がいのある方も一緒に練習し、将来的には登別市のスポーツとして大会ができると良いと思っています。

◎部会長

部会員さんは、本当に頑張っていると思います。私たちは体に不自由がないのにその頑張りにはかないませんね。

◎事務局

パラリンピックに出る方などは、実際にその活動費用をどのように捻出しているのですか。

◎部会員

知り合いで、パラリンピックに出場する方がいますが、先ほど話したとおり、年間300万円程度必要で、関係団体から100万円程度の助成と、残りの200万円は自己資金とのことでした。すごく大変だと言っていました。働いていないと無理です。

◎部会長

スポンサーなどは付かないのですか。

◎部会員

パラリンピックでは、ほとんど付きません。オリンピックではあるようですが。私もいろいろな大会で優勝したり、記録も作っています。このように障がいがあっても頑張っている市民がいるということも知ってほしい。今後も私自身は記録の向上に向けて努力するが、今、中高生の選手もたくさんいます。その子たちの力を伸ばしてあげたいが、良い指導者いないと伸ばしてあげられない。

◎副部会長

部会員からの発言もありましたが、登別市はスポーツに関する支援が障がいのある方に限らず乏しいと思う。高齢者スポーツなどについてもほかのまちでは助成制度があるのに、登別市にはないというケースが多いと思います。

市民のスポーツに対して、もう少し検討する必要があると思う。市民には気軽にスポーツ大会などに参加したいという気持ちもあります。

◎部会員

スポーツの所管ですが、国体は文科省が主催者で、障害のある人のスポーツ全国大会は厚労省が主催しています。障がい者スポーツの支援が少ないのは、そのような縦割り行政の影響もあるのかもしれませんが。

◎市庁内部会員

今回の全国大会出場のお話を受け、助成制度について、いろいろ調べたが、児童の助成はあるものの、大人になると特に助成制度が見つかりませんでした。これは、障害のあるなしに関わらず、児童にのみ助成制度あるということです。

◎事務局

今回の第3期基本計画の策定では、単に助成制度が必要だからという理由だけでは、計画に盛り込むのは難しいです。

障がいがあってもなくても、また高齢者もみんなが、それぞれ生きがいが無ければいけないと思います。その生きがいが部会員のようにスポーツだということであれば、それに対してどのような支援や取り組みが必要なのかということはこの部会で検討していただきたい。

検討したからといって、必ず計画に反映されるとは限りませんが、そのような声を出し続けることが大事だと思います。

◎部会員

今回、全国大会に向けた道内合宿があった際に、監督・コーチには費用負担がなく、選手にだけ個人負担が課されている点について問題提起しました。障がいのある方の中には、仕事がしたくてもできない人が大勢います。そこまで選手が負担して参加する意味があるのかということで、今後も話していかなければならない問題として捉えています。

それと、先ほども少し話しましたが、誰でもできるスポーツに「ボッチャ」というスポーツがあります。私も学校の福祉授業などでボッチャを子供たちに教えていますが、みんな楽しくやってくれます。将来的に登別市のスポーツとして市民大会を開催することが私の夢です。

◎事務局

今回の第1章で、市民が生き生きと生きがいを持って暮らせるまちをどうするかと考えた時に、つながる部分になりますね。

◎部会員

何か、計画に反映できれば良いと思っています。

◎事務局

今後、体系図を一つずつ見ていく中で、どこかに盛り込むことが可能か検討していきましょう。

◎部会員

登別温泉のバリアフリーもあまり進んでおりません。全国の障害者協会から問い合わせが来るのですが、返答に困ることが多いです。私たち自身も市民でありながら、入浴ができる宿泊施設は限られ、市外の障がいのある方に紹介する場所も限られます。

ちょっとした工夫などで利用可能になることも多いので、対応をお願いしたい。

◎部会長

ありがとうございました。それでは次の部会員さんお願いします。

◎部会員

わたしは、男女共同参画の立場で参加しています。21世紀は男性も女性も輝いて生きる世紀ということが世界中の課題となっています。

しかし、なかなかこれを推進できていません。会として色々な行事を行い啓発活動をしています。市民も行政もあまり参加が芳しくない状況です。

ジェンダー（性差）についてですが、日本は封建社会が長かったせいもあり、「男性が上で女性が下」という概念がなかなか取り除くことができない状況にあります。しかし、ジェンダーというのは子育てから高齢者まで生活のすべてにかかわる考え方です。

少し話がそれますが、教育委員会の事業で、登別市と室蘭市、伊達市の3市で女性リーダー育成の研修をしていると思いますが、なかなかその人材が生かされていないかなとも個人的には感じています。

◎副部会長

男女共同の点で、例えば町内会の役員などは、必要に応じ役員になってくれれば良いと考えています。しかし、これではだめだという意見もあり、女性の割合などの数値を求められることがあるが、個人的にはあまり意味がないと思っています。

◎部会員

それは、女性も一緒に活動できるような環境を作ってくださいと言う思いもあります。

◎部会員

「男女共同参画」というネーミングもあまりよくないと思う。

◎副部会長

男女共同参画に係る法律は、かなり前に成立しており、どちらかというとな女性の立場に立った内容になっている。しかし今は、男性も女性も関係なく同じ立場だという言い方をすればよいと思う。それで、「男女共同参画」という語句が気になります。

◎部会長

出席簿の順番が男女別でおかしいという問題もありますが、いわゆる「主夫」

についても、他人がどうこう言うことは必要ないと思います。

◎部会員

そうです。自分らしく生きるということです。「男性らしく、女性らしく」ではなく、自分らしく生きるにはどうすれば良いかということです。

◎部会長

男性だから、女性だからこうしなければということではなく、選択肢はたくさんあるということです。

◎部会員

そうですが、やはりこのような考え方でも。女性の立場は、男性に比べまだ劣悪な環境におかれている場合が多いです。シングルマザーや非正規雇用の問題なども女性のほうが声を上げづらいということも現実です。

◎部会長

今の若い男性は、子育てにも協力的な人が増えたが、それでも家事や子育ては女性の仕事として考えている男性もまだまだ多いです。

◎部会員

女性が犠牲になる事件も依然として多く起きています。ですので、このジェンダーということはいろいろなところに関わっているということを理解していただきたいと思います。

◎副部会長

これからのジェンダー教育は、子どもからやっていかなければいけない。そうすればジェンダーの意識は高まっていくと思います。

私の私見ですが、仕事でも保育士や幼稚園の先生、看護師などは、近年男性の人も多くなってきているが、女性職場として社会的な認識があるので、なかなかすぐには変化を期待できないと思います。

それと、男女共同参画の話の時に、よく封建制度のことが話題になるが、封建時代にも姫や王妃はいて、必ずしも男性が上位だったわけではないと思っています。

◎事務局

それでは、市民部会員の皆さんからはある程度お話ししていただきましたので、ここで本日欠席する予定でした庁内検討委員会のぬくもり部会部会長の松

本次長と、副部会長の吉田総括主幹が到着しましたのでご報告します。

◎部会長

終了の時間も迫ってきましたが、折角ですから、庁内部会長、副部会長から一言ずついただきたいと思います。

◎市庁内部会部会長

それでは一言、庁内においても、ぬくもり部会として、担当の総括主幹を中心に18名体制で、これまで5回開催し、細かな見直しを行っておりますが、市民の皆さんが見た時には、また疑問点などがあるかもしれませんので、どんどん発言をいただき、それをまた庁内に持ち帰り、再検討するなど、皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願います。

◎部会長

庁内部会副部会長お願いします。

◎市庁内部会部副会長

参加が遅れてしまい申し訳ございません。私は子育ての担当でありますので、今後の少子化、人口減など、今回の計画では、子育て施策は大きなウエイトを占めていると思いますので、皆さんに色々な情報提供をし、ご意見を反映していきたいと思いますので今後ともよろしく願います。

◎部会長

ありがとうございました。そろそろ予定の時間も近づいてきましたので、次回の日程を調整して終わりたいと思いますが、いかがでしょうか。

(部会員間で日程調整)

それでは、皆さんの予定を勘案し6月25日(水)18時30分から市役所で開催したいと思います。次回も今回と同じように皆さんの思いを話していただきたいと思います。通知は事務局より後日通知します。

以上で会議を終了します。ありがとうございました。